

# 災害に備える！

## 山陰災害を教訓にしましょう



昭和五十八年七月二十三日未明活発化した梅雨前線の影響で、島根県西部、山口県東部を中心に集中豪雨がありました。島根県益田市では一時間雨量九十ミリ、阿武郡須佐町では一時間雨量五十二ミリを記録し、二十三日の零時から八時までの短時間に益田市で三八二ミリ、須佐町で二一七ミリの雨量を記録しました。

このため、これらの地区を中心に浜田市や那賀郡三隅町などでガケ崩れや河川のはんらんが相次ぎ、死者、行方不明者は一七七名にのぼりました。人身災害の大半は、市街地の端、または山間部で発生し、部分的な小規模な地表流れの土石流か鉄砲水によるものと言われています。

三十名以上の犠牲者が出た、益田市や那賀郡三隅町でも洪水による死者はそれぞれ二名だけでした。

ちょうど一年前、長崎を集中豪雨が襲い二九名の犠牲者が出ていますが、今回の水害と被災の状況がよく似ています。長崎大水害では大雨や洪水の予警報を「まさか」と聞き流した人が七十五%もいたと言われています。災害は繰

り返し発生するものです。過去に起った災害や、自分達が住んでいる地域の特性（河川、がけの位置など）、環境の変化（山林の伐採や宅地の造成など）に気をつけ、いざという時の非常持出し品やテレビ、ラジオの気象情報に注意しておくことが大切です。

○災害に備えての準備  
大雨が降り続いたり、台風近づいた場合は次のことに注意しましょう。

- ラジオやテレビの気象情報、防災上の注意事項をよく聴くこと
- 大雨が降って地盤がゆるむとガケ崩れの危険があるので、近くにガケのある人は十分注意すること。

- 川や海岸近くに住んでいる人は、川の水かさや、高潮、波浪に注意するとともに、危険を知らせるサイレン、警鐘に気を付け、隣近所で知らせあうこと。
- 老人や病人、身体の不自由な人のいる家は、早めに避難すること。

○危険が迫った場合の心得  
河川のはんらん、山崩れ、ガケ崩れ、高潮などはあつという間に起きます。ちよつとした油断や、家財道具への執着が避難を遅らせ大事をまねき、貴い人命が失われた事例は数多くあります。危険が迫ったら次のような点に注意して何よりも早めに避難することが大切です。

- 火の始末や戸締まりを確実にし、電気は安全器を切り、ガスの元栓は確実に締めること。
- 体を守るようなものを身につ

け、素肌の露出はできるだけ避け最低限必要な物だけを背負うようにすること。

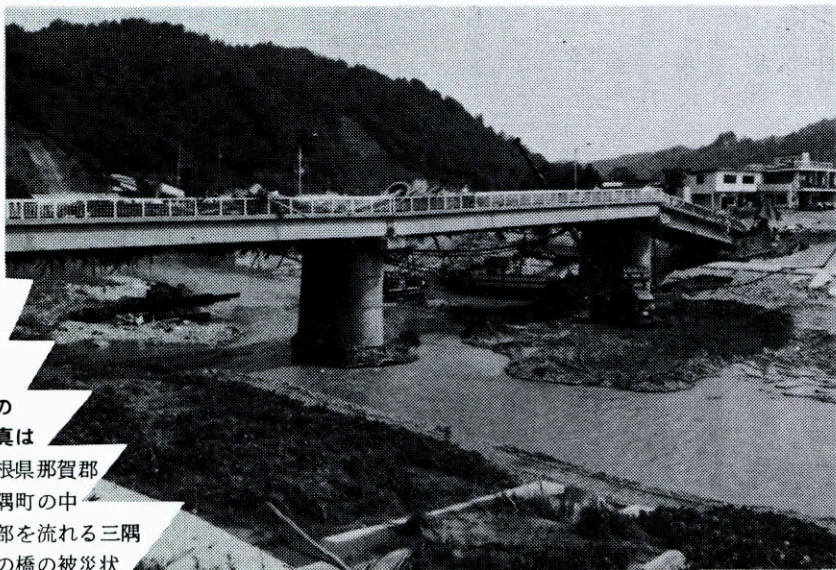
- 避難命令は、市町村長等から出されますので、消防、警察等の防災関係者の指示に従い、家族そろって安全なところを通り、指示された場所に避難すること。

今年の梅雨時期は幸いなことに災害の発生するような雨は降りませんでしたが、台風による雨も予想されます。自分達の住んでいる

地域は安全か、今一度点検してみましょう。

◎防災講習会の開催について  
長門地区消防本部ではこの度の水害による被災地に職員を派遣して被災地の状況を視察させました。被災地の状況をスライドに収めてまいりましたので、自治会や職場単位で防災講習会を開催する準備を進めております。ご希望があれば消防本部へお申込み下さい。

「備えあれば憂なし」



この写真は島根県那賀郡三隅町の中心部を流れる三隅川の橋の被災状況です。

橋脚の高さは、約12メートルありますが、はんらんした川の水は、この橋の欄干を越えました。このため、兩岸にも水があふれ、岸近くの家屋は全、半壊し役場をはじめほとんどの家屋は床上浸水しました。